

学習指導要領等の構造化のイメージ（仮案・調整中） （論点整理 補足資料110を抜粋）

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけでなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないか。

平成27年12月14日
教育課程部会
理科ワーキンググループ
資料5

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質の育成を期す

教科横断的・総合的に育成すべきさまざまな資質・能力

教科等間の往還 (カリキュラム・マネジメント)	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)	
	教科学習 <small>※資料○参照</small>	各教科に固有の知識や 個別のスキル	各教科の本質に根ざした問題解決の 能力、学び方やものの考え方	各教科を通じて育まれる情意、 態度等
	総合的な学習	(各学校で設定)	横断的・総合的な問題解決の能力	実社会における横断的・総合的な 問題解決に取り組む態度
	特別活動	集団の運営に関する方法や 基本的な生活習慣等	よりよい集団の生活や 自己の生活習慣等を形成していく能力	自己の役割や責任を果たす態度等
	道徳教育	道徳的価値	道徳的判断力	道徳的心情、 道徳的実践意欲と態度

アクティブ・ラーニングの視点に立った
深い学び、対話的な学び、主体的な学びの実現